

平成30年度  
阿賀野市財務書類  
～統一的な基準～



令和2年5月  
阿賀野市



# 目次

## 財務書類（統一的な基準）作成について

1. はじめに . . . . . 1

## 財務書類の種類・対象範囲等について

2. 地方自治体の財務書類の種類 . . . . . 2  
3. 対象となる会計の範囲、作成基準 . . . . . 4

## 阿賀野市の財務4表（簡略版）

4. 貸借対照表【BS】 . . . . . 5  
5. 行政コスト計算書【PL】 . . . . . 7  
6. 純資産変動計算書【NW】 . . . . . 9  
7. 資金収支計算書【CF】 . . . . . 11  
8. 指標による分析 . . . . . 13

## 資料編（財務4表詳細版）

9. 一般会計等財務書類 . . . . . 16  
10. 全会計財務書類 . . . . . 24  
11. 連結会計財務書類 . . . . . 30

## 1. はじめに

### (1) 地方公会計について

地方公共団体における予算・決算に係る会計制度は、地方自治法等に基づく現金主義・単式簿記の会計制度となっています。しかし、この会計制度では、資産・負債などのストック情報や減価償却費等の現金支出を伴わないコストなどを把握することができませんでした。

地方公会計は、発生主義・複式簿記の導入により、ストック情報や現金支出を伴わないコストなどを把握することが可能となり、外部に対する財務情報の分かりやすい開示や、財政運営・政策形成などに活用することができます。

### (2) これまでの経緯について

平成18年に制定された「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」を契機に、地方公共団体の資産・債務改革の一環として「新地方公会計制度の整備」が位置付けられました。

これにより、「新地方公会計制度研究会報告書」（平成18年5月総務省）で示された「基準モデル」または「総務省方式改訂モデル」のどちらかを採用して、地方公共団体単体ベース及び関係団体等も含む連結ベースでの4つの財務書類を整備することが求められました。

本市では、平成20年度決算から「基準モデル」を採用し、平成26年度決算までこの基準で財務書類を作成してきました。

### (3) 統一的な基準による財務書類の作成について

これまでの財務書類は、作成方法には複数の方式が存在しており、地方公共団体間での比較可能性が確保されていないことなどが課題となっていました。

そこで、発生主義・複式簿記の導入、固定資産台帳の整備を前提とし、客観性・比較可能性を担保した「統一的な基準」による地方公会計の整備方針が平成26年に示されました。

本市では、平成27年度決算から「統一的な基準」による財務書類を作成しています。

## 2. 地方自治体の財務書類の種類

地方自治体における財務書類（財務4表）は、次の4表のことをいいます。

### （1）貸借対照表（BS）

Balance Sheet

貸借対照表は、基準日時点における市の財政状況（資産・負債・純資産の残高及び内訳）を表しています。

資産は資産形成された行政財産や投資・出資等の状況、負債は将来世代の負担になるもの、純資産は過去世代がすでに負担したものを示しています。

借方（左側）に資産、貸方（右側）に負債、純資産が計上され、資産の合計と負債及び純資産の合計は一致します。

### （2）行政コスト計算書（PL）

Profit and Loss statement

行政コスト計算書は、会計期間中の市の費用・収益の取引高を表しています。

民間企業の損益計算書に相当するもので、1年間の行政運営に要する費用のうち、福祉サービスやごみ収集にかかる経費など、資産形成に結びつかない行政サービスに要した費用を示しています。

経常費用と臨時費用に分かれ、そのうち経常費用は業務費用と移転費用に分けて表示しています。

### （3）純資産変動計算書（NW）

Net Worth statement

純資産変動計算書は、会計期間中の純資産及びその内部構成の変動を表しています。

行政コスト計算書の純行政コストの財源となる市税・国県支出金や、純資産を構成する固定資産や貸付金の変動などを表示しています。

### （4）資金収支計算書（CF）

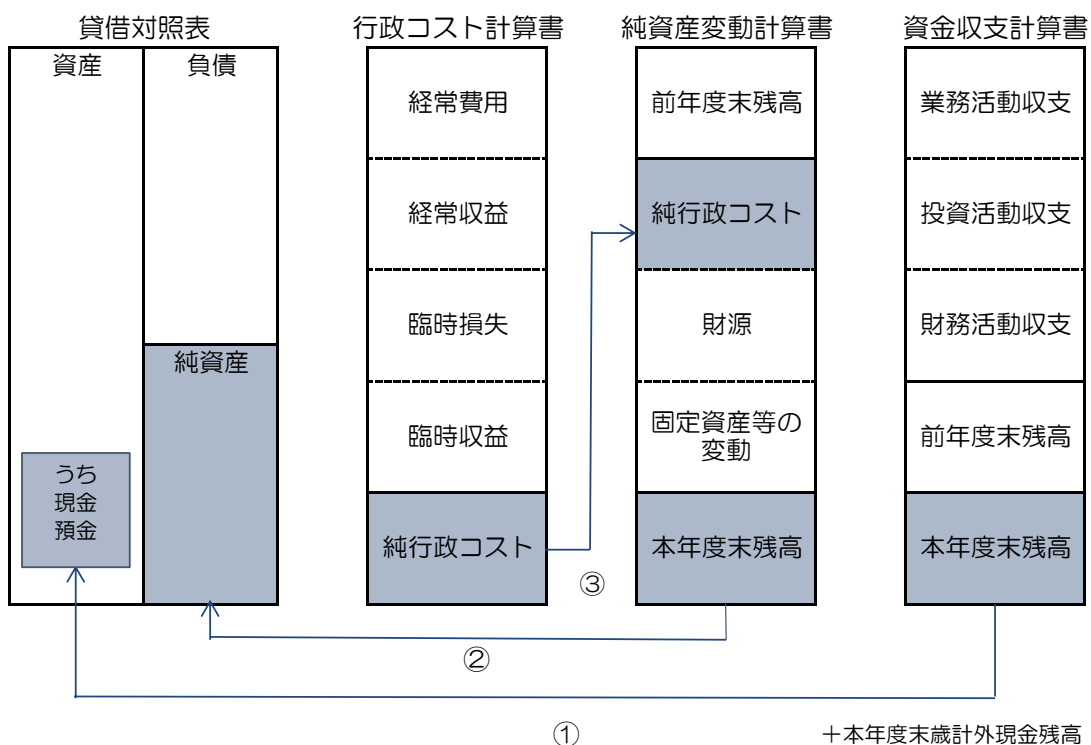
Cash Flow statement

資金収支計算書は、会計期間中の市の資金収支の状況を表しています。

4表の中で唯一現金主義に基づく財務書類で、官庁会計の歳入歳出決算書と一致します。

業務活動収支、投資活動収支、財務活動収支の3つの区分により表示しています。

なお、4つの財務書類の関係を図で表すと、概ね次のようになります。



- ① 貸借対照表の資産のうち「現金預金」の金額は、資金収支計算書の「本年度末資金残高」と「本年度末歳計外現金残高」を足したものと（＝「本年度末現金預金残高」）と対応します。
- ② 貸借対照表の「純資産」の金額は、純資産変動計算書の「本年度末純資産残高」と対応します。
- ③ 行政コスト計算書の「純行政コスト」の金額は、純資産変動計算書の「純行政コスト」と対応します。

### 3. 対象となる会計の範囲、作成基準

#### (1) 対象となる会計の範囲

財務4表は、一般会計及び地方公営事業会計以外の特別会計からなる「一般会計等」（当市の場合は一般会計のみ）と、一般会計等に特別会計などの地方公営事業会計を加えた「全体会計」と、全体会計に一部事務組合などの市の関連団体を加えた「連結会計」の3つの区分で作成しています。

会計名称	会計区分
一般会計	
国民健康保険特別会計	
後期高齢者医療特別会計	
介護保険特別会計	
少年自然の家特別会計	
工業団地造成事業特別会計	
水道事業会計	
病院事業会計	
下越障害福祉事務組合	
新発田地域老人福祉保健事務組合	
五泉地域衛生施設組合	連結会計
阿賀北広域組合	
新潟県市町村総合事務組合（普通会計）	
新潟県市町村総合事務組合（事業会計）	
新潟県後期高齢者医療広域連合	

※地方公営企業法の財務規定適用に向けた移行作業に着手している公共下水道事業特別会計及び集落排水事業特別会計については、移行完了まで統一的な基準による財務書類作成が猶予され、対象外となります。

#### (2) 作成基準

作成基準日……平成31年3月31日

※一般会計及び特別会計における出納整理期間（平成31年4月1日から5月31日まで）の入出金については、作成基準日までに終了したものとして処理しています。

## 4. 貸借対照表【BS】

貸借対照表は、これまでに整備された資産の状況や、その資産形成の財源である負債、純資産の状況など、ストックに関する情報を表した報告書です。

資産の部、負債の部、純資産の部の3つに区分され、それぞれさらに以下のように区分されます。

### ① 資産の部

資産の部は、行政サービスを提供するために市が保有している資産が計上され、固定資産と流動資産に区分されます。固定資産は、市庁舎や道路などの有形固定資産、ソフトウェアなどの無形固定資産、有価証券や出資金などの投資その他の資産に区分されます。

### ② 負債の部

負債の部は、将来の世代が負担することになる地方債や職員の退職手当に備える退職手当引当金など、将来において支払の必要がある固定負債と、翌年度に償還される地方債や職員の賞与等の支払いなど、短期間のうちに支払期限が到来する流動負債に区分されます。

### ③ 純資産の部

純資産の部は、資産と負債の差額です。

純資産の増減が意味するのは、例えば純資産が増加した場合は、現役世代が自らの負担によって将来世代も利用可能な資産を蓄積し、将来世代の負担が軽減されたことを意味し、逆に純資産が減少した場合、現役世代が将来世代にとっても利用可能であった資産を消費して便益を受ける一方で、将来世代にその分の負担を先送りしたことを意味します。

### ◎資産・負債・純資産の区分

資産	1.固定資産	
	(1)有形固定資産	
	①事業用資産	庁舎や学校、福祉施設など。
	②インフラ資産	道路や公園、上下水道施設など。
	③物品	車両など。
	(2)無形固定資産	ソフトウェアなど。
	(3)投資その他の資産	有価証券、出資金、特定目的基金など。
	2.流動資産	
負債	1.固定負債	
	(1)地方債	地方債残高のうち翌々年度以降に償還するもの。
	(2)長期末払金	確定債務のうち翌々年度以降に支払うもの。
	(3)退職手当引当金	職員の退職手当に備えるもの。
	2.流動負債	
	(1)1年内償還予定地方債	地方債残高のうち翌年度償還するもの。
	(2)未払金	確定債務のうち翌年度支払うもの。
(3)賞与等引当金	職員の賞与等の支払いに備えるもの。	
純資産	過去及び現役世代が負担して蓄積されてきたもの。	



平成30年度 貸借対照表【BS】（平成31年3月31日現在）

（単位：千円）

資産の部	一般会計等	全体	連結	負債の部	一般会計等	全体	連結
<b>1. 固定資産</b>	60,463,496	82,125,861	84,249,421	<b>1. 固定負債</b>	26,112,854	40,736,730	41,161,311
(1) 有形固定資産	55,242,269	76,497,510	77,867,884	(1) 地方債	21,609,362	32,183,305	32,522,005
① 事業用資産	28,044,616	35,361,884	36,575,423	(2) 長期未払金	0	0	0
② インフラ資産	26,643,783	38,214,625	38,217,484	(3) 退職手当引当金	4,503,492	4,503,492	4,589,373
③ 物品	553,870	2,921,001	3,074,977	(4) その他	0	4,049,933	4,049,933
(2) 無形固定資産	95,538	97,924	99,935	<b>2. 流動負債</b>	2,455,261	3,107,809	3,134,180
(3) 投資その他の資産	5,125,689	5,530,427	6,281,602	(1) 1年内償還予定 地方債	2,092,109	2,517,379	2,537,254
① 投資及び出資金	59,539	59,539	59,539	(2) 未払金・未払費用	0	154,277	154,277
② 基金	4,877,719	5,150,736	5,901,849	(3) 賞与等引当金	234,761	262,315	268,563
③ その他	188,431	320,152	320,214	(4) その他	128,391	173,837	174,087
<b>2. 流動資産</b>	3,750,499	5,309,281	5,603,889	<b>負債合計</b>	28,568,115	43,844,540	44,295,490
(1) 現金預金	1,369,035	2,805,190	2,938,362	<b>純資産の部</b>	<b>一般会計等</b>	<b>全体</b>	<b>連結</b>
(2) 基金	2,328,330	2,328,330	2,489,723	<b>純資産合計</b>	35,645,879	43,590,602	45,557,819
(3) その他	53,134	175,761	175,803	<b>負債及び純資産合計</b>	64,213,995	87,435,141	89,853,310
<b>資産合計</b>	64,213,995	87,435,141	89,853,310				

※ 記載金額は表示単位未満を四捨五入して表示しているため、合計と一致しない場合があります。

●阿賀野市【一般会計等】貸借対照表について

①資産について

資産総額は約642億円となっており、そのうち固定資産は94.2%の約605億円、流動資産は5.8%の約37億円となっています。

固定資産の多くを占めているのが有形固定資産で、91.4%の約552億円となっています。その内訳は、市庁舎や学校などの事業用資産は50.8%の約280億円、道路や公園などのインフラ資産は48.2%の約266億円、車両などの物品は1.0%の約6億円となっています。

②負債について

負債総額は約286億円となっており、資産全体の44.5%を占めています。これは、資産のうち将来の世代が負担する割合が約半分であることを表しています。

負債のうち、固定負債は91.4%の約261億円、流動負債は8.6%の約25億円となっています。固定負債の多くを占めているのが地方債で、82.8%の約216億円となっています。

③純資産について

純資産総額は約356億円となっており、資産全体の55.5%を占めています。これは、資産のうち過去及び現役の世代が負担した割合が約半分であることを表しています。

## 5. 行政コスト計算書【PL】

地方公共団体の行政活動には、資産の形成につながる道路や公園、学校などの公共施設の整備のほか、資産の形成につながらない社会保障やごみ処理などの行政サービスがあります。

行政コスト計算書は、このような資産形成につながらない行政サービスの提供に要するコストと、それらに充当する使用料・手数料などの収入を表した報告書です。

行政コストに係る収支は、毎年度経常的に発生する経常費用及び経常収益と、臨時的に発生する臨時損失及び臨時利益に区分されます。そのうち経常費用は、業務活動の経常的な支出に係る業務費用と、他の団体や個人に対する支出に係る移転費用に区分されます。

### ◎コストの区分

経常費用	
1.業務費用	
(1)人件費	職員給与費や賞与等引当金繰入額、退職手当引当金繰入額など。
(2)物件費等	物件費（需用費や委託料など消費的性質の経費）、維持補修費、減価償却費（経年劣化などに伴う資産価値減少額）など。
(3)その他業務費用	地方債等に係る利子や徴収不能引当金繰入額など。
2.移転費用	
(1)補助金等	負担金や補助金など。
(2)社会保障給付	児童手当や生活保護費などの扶助費。
(3)他会計への繰出金	他会計に対する繰出金。
経常収益	使用料及び手数料など。
純経常行政コスト	経常費用から経常収益を除いたもので、経常的に発生する費用のうち、受益者の負担などの収益で賄いきれなかった費用。
臨時損失	災害復旧事業費や資産除売却損など。
臨時利益	資産売却益など。
純行政コスト	純経常行政コストに臨時損失を加え、臨時収益を除いたもので、市税や国県補助金などで賄うこととなる費用。

平成30年度 行政コスト計算書【PL】（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

（単位：千円）

	一般会計等	全体	連結
<b>経常費用</b> A	17,834,338	27,929,207	31,502,697
<b>1. 業務費用</b>	9,811,178	12,419,609	13,019,784
(1) 人件費	3,481,671	3,841,522	3,923,650
(2) 物件費等	5,989,706	7,849,802	8,277,564
(3) その他の業務費用	339,802	728,285	818,570
<b>2. 移転費用</b>	8,023,159	15,509,597	18,482,913
(1) 補助金等	2,701,221	11,857,082	10,442,460
(2) 社会保障給付	2,423,102	2,439,249	6,822,957
(3) 他会計への繰出金	2,833,944	1,148,249	1,148,249
(4) その他	64,893	65,017	69,247
<b>経常収益</b> B	486,186	1,844,615	1,875,738
<b>1. 使用料及び手数料</b>	119,462	1,114,680	1,131,069
<b>2. その他</b>	366,724	729,936	744,669
<b>純経常行政コスト</b> A-B=C	17,348,152	26,084,591	29,626,959
<b>臨時損失</b> D	4,194	4,194	4,194
<b>臨時利益</b> E	9,294	46,424	46,424
<b>純行政コスト</b> C+D-E=F	17,343,052	26,042,362	29,584,729

※ 記載金額は表示単位未満を四捨五入して表示しているため、合計と一致しない場合があります。

●阿賀野市【一般会計等】行政コスト計算書について

経常費用は約178億円となっています。経常費用のうち、人件費・物件費等などの業務費用は55%の約98億円、補助金等・社会保障給付などの移転費用は45%の約80億円となっています。

また、行政サービスを利用する対価として市民が負担する使用料・手数料などの経常収益は約5億円となっています。

経常費用から経常収益を差し引いた純経常行政コストは約173億円となっており、そこに臨時損益を加味した純行政コストについても約173億円となっています。この純行政コストについては、市税や地方交付税などの一般財源や国県補助金などで賄っていることとなります。

## 6. 純資産変動計算書【NW】

純資産変動計算書は、会計期間中の純資産の変動要因を表した報告書です。

地方公共団体が負担した行政コストのうち、行政サービス利用者の負担では賄いきれなかった部分を、市税や国県からの補助金で賄っているかを表しています。

市税や国県支出金などの財源は純資産の増加要因となりますが、純行政コストは純資産の減少要因となるため、純資産変動計算書ではマイナスで表示されます。

純資産変動計算書の差引がプラスであれば、貸借対照表における純資産の増加、つまり将来世代に資産を残した（負担を軽減した）ことを意味し、逆にマイナスであれば、貸借対照表における純資産の減少、つまり資産を減らした（将来の負担を増やした）ことを意味します。

### ◎変動要因の区分

前年度末純資産残高	前年度末の貸借対照表における純資産合計。
1.純行政コスト	行政コスト計算書の純行政コスト。 (マイナス(△)で計上します。)
2.財源	
(1) 税収等	市税、地方交付税など。
(2) 国県等補助金	国庫支出金及び県支出金など。
本年度差額	純行政コストと財源の差額。
3.固定資産等の変動	
(1) 有形固定資産の増加	有形固定資産等の形成、形成に係る支出など。
(2) 有形固定資産の減少	有形固定資産等の減価償却、除売却など。
(3) 貸付金・基金等の増加	貸付金の支出、基金の造成など。
(4) 貸付金・基金等の減少	貸付金の償還、基金の取崩など。
4.資産評価差額	有価証券等の評価差額。
5.無償所管換等	無償で譲渡または取得した固定資産の評価額など。
本年度純資産変動額	本年度差額と資産評価差額や無償所管換等の合計。
本年度純資産残高	前年度末純資産残高と本年度純資産変動額の合計。

平成30年度 純資産変動計算書【NW】（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

（単位：千円）

		一般会計等	全体	連結
前年度末純資産残高	G	35,295,130	44,088,384	46,244,009
1. 純行政コスト(△)	△F	△ 17,343,052	△ 26,042,362	△ 29,584,729
2. 財源	H	17,655,038	25,970,375	29,413,914
(1) 税収等		13,417,845	16,906,422	18,393,121
(2) 国県等補助金		4,237,192	9,063,953	11,020,793
本年度差額	H-F=I	311,986	△ 71,986	△ 170,815
3. 固定資産等の変動(内部変動)		0	0	0
4. 資産評価差額	J	0	0	0
5. 無償所管換等	K	42,130	△ 249,397	△ 249,397
6. その他	L	△ 3,366	△ 176,398	△ 265,977
本年度純資産変動額	I+J+K+L=M	350,749	△ 497,782	△ 686,190
本年度末純資産残高	G+M	35,645,879	43,590,602	45,557,819

※ 記載金額は表示単位未満を四捨五入して表示しているため、合計と一致しない場合があります。

●阿賀野市【一般会計等】純資産変動計算書について

純行政コストから市税や国県支出金などの財源を差し引いた本年度差額は約3億円の黒字となっています。本年度差額に資産評価差額や無償所管換等を加味した本年度純資産変動額は約4億円の黒字となっています。前年度末純資産残高に本年度純資産変動額を加えた本年度末純資産残高は約356億円となっています。

## 7. 資金収支計算書【CF】

資金収支計算書は、地方公共団体における資金の動きを表した報告書です。

業務活動、投資活動、財務活動の3つの収支に区分され、業務活動収支は行政サービスの中で毎年度継続的に発生する収支、投資活動収支は公共施設の整備や資金の貸付など資産形成に伴い発生する収支、財務活動収支は地方債、借入金など財務的な活動に伴い発生する収支を表しています。

また、歳計外現金は資金収支計算書の資金の範囲に含まれないため、本表の欄外に表示しています。

### ◎収支の区分

1.業務活動収支	
(1)業務支出	人件費、物件費、補助金、社会保障給付など。
(2)業務収入	税収等、投資活動以外の国県等補助金、使用料及び手数料など。
(3)臨時支出	災害復旧事業費など。
(4)臨時収入	災害復旧事業に係る補助金など。
2.投資活動収支	
(1)投資活動支出	公共施設等整備費、基金積立金、投資及び出資金、貸付金など。
(2)投資活動収入	投資活動に係る国県等補助金、基金取崩収入、資産売却収入など。
3.財務活動収支	
(1)財務活動支出	地方債償還など。
(2)財務活動収入	地方債発行など。
本年度資金収支額	業務活動収支、投資活動収支、財務活動収支の合計。
前年度末資金残高	前年度末における歳計現金の残高。
本年度末資金残高	本年度資金収支額と前年度末資金収支残高の合計。

前年度末歳計外現金残高	前年度末における歳計外現金の残高。
本年度歳計外現金増減額	本年度の歳計外現金の増減額。
本年度末歳計外現金残高	前年度末歳計外現金残高と本年度歳計外現金増減額の合計。
本年度末現金預金残高	本年度末資金残高と本年度末歳計外現金残高の合計。

平成30年度 資金収支計算書【CF】（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

（単位：千円）

		一般会計等	全体	連結
1. 業務活動収支	N	1,950,278	2,314,732	2,314,715
(1) 業務支出		15,431,474	24,444,234	27,903,428
(2) 業務収入		17,381,751	26,721,837	30,181,013
(3) 臨時支出		0	0	0
(4) 臨時収入		0	37,130	37,130
2. 投資活動収支	O	△ 1,892,514	△ 1,830,109	△ 1,826,222
(1) 投資活動支出		3,044,466	3,530,206	3,556,483
(2) 投資活動収入		1,151,952	1,700,097	1,730,261
3. 財務活動収支	P	△ 17,805	△ 166,823	△ 169,192
(1) 財務活動支出		2,051,371	2,502,138	2,520,655
(2) 財務活動収入		2,033,566	2,335,315	2,351,462
本年度資金収支額	N+O+P=Q	39,959	317,799	319,301
前年度末資金残高	R	1,200,685	2,358,999	2,492,265
比例連結割合変更に伴う差額	S	—	—	△ 2,405
本年度末資金残高	Q+R+S=T	1,240,644	2,676,799	2,809,160

前年度末歳計外現金残高	U	127,503	294,503	295,217
本年度歳計外現金増減額	V	888	△ 166,112	△ 166,016
本年度末歳計外現金残高	U+V=W	128,391	128,391	129,201
本年度末現金預金残高	T+W=X	1,369,035	2,805,190	2,938,362

※ 記載金額は表示単位未満を四捨五入して表示しているため、合計と一致しない場合があります。

●阿賀野市【一般会計等】資金収支計算書について

業務活動収支は、業務支出が約154億円、業務収入が約174億円となっており、約20億円の黒字となっています。

投資活動収支は、投資活動支出が約30億円、投資活動収入が約11億円となっており、約19億円の赤字となっています。

財務活動収支は、財務活動支出、財務活動収入ともに、約20億円となっています。

業務活動収支、投資活動収支、財務活動収支を合計した本年度資金収支額は約0.4億円の黒字となっており、本年度末資金残高は約12億円となっています。

また、歳計外現金を含む本年度末現金預金残高は約14億円となっています。

## 8. 指標による分析【一般会計等ベース】

※住民基本台帳人口 42,523 人（平成31年1月1日現在）

### ①資産形成度

#### 住民一人当たり資産額

住民一人当たりの資産額を表します。これにより、他団体との比較が容易になります。

[算定式] 資産合計÷住民基本台帳人口

$$64,213,995 \text{ 千円} \div 42,523 \text{ 人} = 1,510 \text{ 千円}$$

⇒ 住民一人当たりの資産額は、約151万円となり、平成29年度と比較して、約2.7万円増となっています。

#### 歳入額対資産比率

これまでに形成されたストックとしての資産が、歳入の何年分に相当するかを表します。これにより、資産形成の度合いを把握することができます。

[算定式] 資産合計÷歳入総額

※歳入総額…資金収支計算書の各収支の収入合計+前年度末資金残高

$$64,213,995 \text{ 千円} \div 21,767,954 \text{ 千円} = 2.95 \text{ 年}$$

⇒ 資産の形成に充当された歳入額は、約3年分相当となり、平成29年度と比較して、約0.1年分増となっています。

#### 有形固定資産減価償却率（資産老朽化比率）

有形固定資産のうち、償却資産の取得価額等に対する減価償却累計額の割合を表します。これにより、耐用年数に対して資産の取得からどの程度経過しているのかを把握することができます。

[算定式] 
$$\frac{\text{減価償却累計額}}{\text{有形固定資産合計} - \text{土地等の非償却資産} + \text{減価償却累計額}}$$

$$\frac{65,745,491 \text{ 千円}}{55,242,269 \text{ 千円} - 12,919,630 \text{ 千円} + 65,745,491 \text{ 千円}} = 60.8 \%$$

⇒ 耐用年数に対する有形固定資産の減価償却率は、約60.8%となり、平成29年度と比較して、約1ポイント増となっています。

### ②世代間公平性

#### 純資産比率

過去及び現世代の負担による将来世代が利用可能な資源の割合を表します。これにより、保有している資産がどの世代の負担により形成されたのかを把握し、世代間負担の公平性を測ることができます。

[算定式] 純資産÷資産合計

$$35,645,879 \text{ 千円} \div 64,213,995 \text{ 千円} = 55.5 \%$$

⇒ 資産に対して過去及び現役世代が負担してきた純資産の割合は、約55.5%となり、平成29年度と比較して、約0.4ポイント増となっています。



#### 社会資本等の世代間負担比率（将来世代負担比率）

有形固定資産などの社会資本等に対して、将来の償還等が必要な負債による調達割合を表します。これにより、社会資本等形成に係る将来世代の負担の程度を把握することができます。

[算定式] 
$$\frac{\text{地方債残高（特例地方債除く）}}{\text{有形・無形固定資産合計}}$$

※地方債残高…貸借対照表の地方債と1年内償還予定地方債の合計から、臨時財政対策債、減収補てん債特例分、減税補てん債、臨時税収補てん債、臨時財政特例債の合計を除いたもの。

$$\frac{14,256,002 \text{ 千円}}{55,337,807 \text{ 千円}} = 25.8 \%$$

⇒ 社会資本等の形成に係る将来世代の負担割合は、約25.8%となり、平成29年度と比較して、約0.4ポイント増となっています。

### ③持続可能性

#### 住民一人当たり負債額

住民一人当たりの負債額を表します。これにより、他団体との比較が容易になります。

[算定式] 
$$\text{負債合計} \div \text{住民基本台帳人口}$$

$$28,568,115 \text{ 千円} \div 42,523 \text{ 人} = 672 \text{ 千円}$$

⇒ 住民一人当たりの負債額は、約67万円となり、平成29年度と比較して、0.6万円増となっています。

#### 基礎的財政収支（プライマリーバランス）

地方債などの元利償還金を除いた歳出と、地方債などの発行収入を除いた歳入のバランスを表します。これにより、持続可能な財政運営ができていないかを把握することができます。

[算定式] 
$$\text{業務活動収支（支払利息支出除く。）} + \text{投資活動収支（基金除く。）}$$

$$2,132,036 \text{ 千円} + \Delta 1,403,283 \text{ 千円} = 728,753 \text{ 千円}$$

⇒ 地方債による収支を除いた歳入歳出は、歳入が約7億2,875万円上回っています。

### ④効率性

#### 住民一人当たり行政コスト

住民一人当たりの行政コストを表します。これにより、他団体との比較が容易になります。

[算定式] 
$$\text{純行政コスト} \div \text{住民基本台帳人口}$$

$$17,343,052 \text{ 千円} \div 42,523 \text{ 人} = 408 \text{ 千円}$$

⇒ 住民一人当たりの行政コストは、約41万円となり、平成29年度と比較して、約1.4万円減となっています。

## ⑤自律性

### 受益者負担の割合（受益者負担比率）

行政サービス提供に対する直接的な受益者負担の割合を表します。これにより、行政サービスに対して、使用料、手数料などの受益者負担でどの程度まかなえているかを把握することができます。

[算定式]  $\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}}$

$$\frac{486,186 \text{ 千円}}{17,834,338 \text{ 千円}} = 2.7 \%$$

⇒ 経常費用のうち行政サービスの受益者の負担割合は、約2.7%となり、平成29年度と比較して、約0.8ポイント増となっています。

# 資料編

阿賀野市財務4表【詳細版】

# 貸借対照表

(平成31年3月31日現在)

会計:一般会計等

(単位:千円)

科目名	金額	科目名	金額
<b>【資産の部】</b>		<b>【負債の部】</b>	
固定資産	60,463,496	固定負債	26,112,854
有形固定資産	55,242,269	地方債	21,609,362
事業用資産	28,044,616	長期未払金	-
土地	8,705,279	退職手当引当金	4,503,492
立木竹	20	損失補償等引当金	-
建物	39,395,947	その他	-
建物減価償却累計額	-21,072,619	流動負債	2,455,261
工作物	4,231,437	1年内償還予定地方債	2,092,109
工作物減価償却累計額	-3,428,140	未払金	-
船舶	1,678	未払費用	-
船舶減価償却累計額	-1,678	前受金	-
浮標等	-	前受収益	-
浮標等減価償却累計額	-	賞与等引当金	234,761
航空機	-	預り金	128,391
航空機減価償却累計額	-	その他	-
その他	-	負債合計	28,568,115
その他減価償却累計額	-	<b>【純資産の部】</b>	
建設仮勘定	212,692	固定資産等形成分	62,791,826
インフラ資産	26,643,783	余剰分(不足分)	-27,145,947
土地	3,391,408		
建物	237,168		
建物減価償却累計額	-204,664		
工作物	63,792,171		
工作物減価償却累計額	-40,872,179		
その他	409,729		
その他減価償却累計額	-166,211		
建設仮勘定	56,361		
物品	2,260,343		
物品減価償却累計額	-1,706,473		
無形固定資産	95,538		
ソフトウェア	-		
その他	95,538		
投資その他の資産	5,125,689		
投資及び出資金	59,539		
有価証券	3,500		
出資金	56,039		
その他	-		
投資損失引当金	-		
長期延滞債権	202,672		
長期貸付金	2,645		
基金	4,877,719		
減債基金	-		
その他	4,877,719		
その他	-		
徴収不能引当金	-16,886		
流動資産	3,750,499		
現金預金	1,369,035		
未収金	57,945		
短期貸付金	-		
基金	2,328,330		
財政調整基金	1,961,491		
減債基金	366,840		
棚卸資産	-		
その他	-		
徴収不能引当金	-4,811		
資産合計	64,213,995	純資産合計	35,645,879
		負債及び純資産合計	64,213,995

# 行政コスト計算書

自 平成30年 4月1日  
至 平成31年3月31日

会計：一般会計等

(単位：千円)

科目名	金額
経常費用	17,834,338
業務費用	9,811,178
人件費	3,481,671
職員給与費	3,018,318
賞与等引当金繰入額	234,761
退職手当引当金繰入額	-
その他	228,592
物件費等	5,989,706
物件費	3,085,629
維持補修費	520,053
減価償却費	2,384,024
その他	-
その他の業務費用	339,802
支払利息	181,758
徴収不能引当金繰入額	17,342
その他	140,702
移転費用	8,023,159
補助金等	2,701,221
社会保障給付	2,423,102
他会計への繰出金	2,833,944
その他	64,893
経常収益	486,186
使用料及び手数料	119,462
その他	366,724
純経常行政コスト	17,348,152
臨時損失	4,194
災害復旧事業費	-
資産除売却損	4,194
投資損失引当金繰入額	-
損失補償等引当金繰入額	-
その他	-
臨時利益	9,294
資産売却益	9,294
その他	-
純行政コスト	17,343,052

# 純資産変動計算書

自 平成30年 4月1日  
至 平成31年3月31日

会計：一般会計等

(単位：千円)

科目名	合計	固定資産等形成分	余剰分(不足分)
前年度末純資産残高	35,295,130	62,648,558	-27,353,428
純行政コスト(△)	-17,343,052		-17,343,052
財源	17,655,038		17,655,038
税金等	13,417,845		13,417,845
国県等補助金	4,237,192		4,237,192
本年度差額	311,986		311,986
固定資産等の変動(内部変動)		104,523	-104,523
有形固定資産等の増加		2,023,875	-2,023,875
有形固定資産等の減少		-2,410,561	2,410,561
貸付金・基金等の増加		742,264	-742,264
貸付金・基金等の減少		-251,055	251,055
資産評価差額	-	-	
無償所管換等	42,130	42,130	
その他	-3,366	-3,384	18
本年度純資産変動額	350,749	143,269	207,481
本年度末純資産残高	35,645,879	62,791,826	-27,145,947

# 資金収支計算書

自 平成30年 4月1日  
至 平成31年3月31日

会計：一般会計等

(単位：千円)

科目名	金額
<b>【業務活動収支】</b>	
業務支出	15,431,474
業務費用支出	7,408,315
人件費支出	3,480,788
物件費等支出	3,605,682
支払利息支出	181,758
その他の支出	140,087
移転費用支出	8,023,159
補助金等支出	2,701,221
社会保障給付支出	2,423,102
他会計への繰出支出	2,833,944
その他の支出	64,893
業務収入	17,381,751
税込等収入	13,398,983
国県等補助金収入	3,648,906
使用料及び手数料収入	119,632
その他の収入	214,230
臨時支出	-
災害復旧事業費支出	-
その他の支出	-
臨時収入	-
<b>業務活動収支</b>	<b>1,950,278</b>
<b>【投資活動収支】</b>	
投資活動支出	3,044,466
公共施設等整備費支出	2,023,875
基金積立金支出	670,591
投資及び出資金支出	-
貸付金支出	350,000
その他の支出	-
投資活動収入	1,151,952
国県等補助金収入	588,286
基金取崩収入	181,360
貸付金元金回収収入	350,369
資産売却収入	31,637
その他の収入	300
<b>投資活動収支</b>	<b>-1,892,514</b>
<b>【財務活動収支】</b>	
財務活動支出	2,051,371
地方債償還支出	2,051,371
その他の支出	-
財務活動収入	2,033,566
地方債発行収入	2,033,566
その他の収入	-
<b>財務活動収支</b>	<b>-17,805</b>
<b>本年度資金収支額</b>	<b>39,959</b>
<b>前年度末資金残高</b>	<b>1,200,685</b>
<b>本年度末資金残高</b>	<b>1,240,644</b>
<b>前年度末歳計外現金残高</b>	<b>127,503</b>
<b>本年度歳計外現金増減額</b>	<b>888</b>
<b>本年度末歳計外現金残高</b>	<b>128,391</b>
<b>本年度末現金預金残高</b>	<b>1,369,035</b>

# 注記(一般会計等)

## I 重要な会計方針

### 1 有形固定資産等の評価基準及び評価方法

開始時における有形固定資産等の評価は原則として取得原価とし、取得原価が不明なものは原則として再調達原価としております。  
(償却資産… 建物・工作物・船舶・物品・その他・ソフトウェア)  
また、開始後については、原則として取得原価とし、再評価は行わないこととしております。

### 2 有価証券等の評価基準及び評価方法

・出資金及び有価証券のうち、市場価格があるもの

会計年度末における市場価格をもって貸借対照表価額としております。

・出資金及び有価証券のうち、市場価格がないもの

出資金額又は取得価額をもって貸借対照表価額としております。ただし、出資金のうち市場価格のないものについて、出資先の財政状態の悪化により出資金の価値が著しく低下した場合には、相当の減額を行うこととしております。

なお、出資金の価値の低下割合が30%以上である場合には、「著しく低下したとき」に該当するものとしております。

### 3 有形固定資産等の減価償却の方法

・有形固定資産(事業用資産、インフラ資産)

定額法を採用しております。

・無形固定資産

定額法を採用しております。

### 4 引当金の計上基準及び算定方法

・徴収不能引当金

過去5年間の平均不納欠損率により計上しております。

・退職手当引当金

地方公共団体財政健全化法における退職手当支給額に係る負担見込額算定方法に従っております。

・賞与等引当金

翌年度6月支給予定の期末・勤勉手当及びそれらに係る法定福利費相当額の見込額について、全支給対象期間に対する本年度の支給対象期間の割合を乗じた額を計上しております。

### 5 リース取引の処理方法

#### (1)ファイナンス・リース取引

ア、所有権移転ファイナンス・リース取引(リース期間が1年以内のリース取引およびリース料総額が300万円以下のファイナンスリース取引を除きます)

通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理を行っております。

イ、ア以外のファイナンス・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っております。

#### (2)オペレーティング・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っております。



## 6 資金収支計算書における資金の範囲

現金(手許現金及び要求払預金)及び現金同等物(3か月以内の短期投資等)を資金の範囲としております。  
なお、現金及び現金同等物には、出納整理期間中の取引により発生する資金の受払いも含んでおります。

## 7 その他財務書類作成のための基本となる重要な事項

### (1)消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式によっております。

### (2)物品およびソフトウェアの計上基準

物品については、取得価額または見積価額が50万円(美術品は300万円)以上の場合に資産として計上しています。  
ソフトウェアについては、試験研究費に該当しないものを計上しています。

### (3)資本的支出と修繕費の区分基準

修繕費等の性質での判断が困難な場合には、支出金額が60万円未満であれば修繕費に、60万円以上であれば資本的支出として処理しております。

## II 重要な会計方針の変更等

該当なし

## III 重要な後発事象

該当なし

## IV 偶発債務

該当なし

## V 追加情報

### 1 対象範囲(対象とする会計)

一般会計

### 2 一般会計等と普通会計の対象範囲等の差異

一般会計等は普通会計の対象範囲に加えて、介護サービス事業を対象としております。

### 3 出納整理期間

地方自治法235条の5の規定により出納整理期間が設けられております。財務書類の作成基準日は会計年度末(3月31日)ですが、出納整理期間中の現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としております。

### 4 端数処理等

千円未満を四捨五入して表示しているため、合計金額が一致しない場合があります。

## 5 地方公共団体財政健全化法における健全化判断比率の状況

実質赤字比率	- %
連結実質赤字比率	- %
実質公債費比率	10.6 %
将来負担比率	147.9 %

## 6 利子補給等に係る債務負担行為の翌年度以降の支出予定額

421千円

## 7 繰越事業に係る将来の支出予定額

継続費通次繰越額

-

繰越明許費

884,131 千円

事故繰越額

-

## 8 売却可能資産に係る資産科目別の金額及びその範囲

売却可能資産の範囲は「資産評価及び固定資産台帳整備の手引き」の104段によっています。

事業用資産	425,021 千円
土地	310,503 千円
立木竹	20 千円
建物	113,926 千円
工作物	572 千円

平成31年3月31日時点における売却可能価額を記載しています。

売却可能価額は、地方公共団体の財政の健全化に関する法律における評価方法によっています。

## 9 減債基金に係る積立不足の有無及び不足額

積立不足なし

## 10 基金借入金(繰替運用)の内容

財政調整基金	なし
減債基金	なし
その他(合併市町村振興基金)	600,000 千円

上記繰替使用額は、満期が平成31年3月31日までのものであり、その後の出納整理期間中に取崩しが行われた場合、平成30年度末の基金残高を上回ることがあります。

## 11 地方交付税措置のある地方債のうち、将来の普通交付税の算定基礎である基準財政需要額に含まれることが見込まれる金額

28,749,127 千円

## 12 将来負担に関する情報(地方公共団体財政健全化法における将来負担比率の算定要素)

イ. 標準財政規模	12,748,909 千円
ロ. 元利償還金・準元利償還金に係る基準財政需要額算入額	2,350,481 千円
ハ. 将来負担額	50,774,655 千円
ニ. 充当可能基金額	4,789,365 千円
ホ. 特定財源見込額	1,851,443 千円
ヘ. 地方債現在高等に係る基準財政需要額算入見込額	28,749,127 千円

## 13 純資産における固定資産等形成分及び余剰分(不足分)の内容

- ・固定資産等形成分は、固定資産の額に流動資産における短期貸付金及び基金等を加えた額を計上しております。
- ・余剰分(不足分)は、純資産合計額のうち、固定資産等形成分を差し引いた金額を計上しております。

## 14 基礎的財政収支

業務活動収支(支払利息支出を除く)	2,132,036 千円
投資活動収支(基金の積立・取崩除く)	-1,403,283 千円
基礎的財政収支	728,753 千円

## 15 既存の決算情報との関連性

歳入歳出決算書の歳入総額及び歳出総額は、資金収支計算書の収入総額と支出総額に一致します。

## 16 資金収支計算書の業務活動収支と純資産変動計算書の本年度差額との差額の内訳

資金収支計算書の業務活動収支	1,950,278 千円
投資活動収入の国県等補助金	588,286 千円
未収債権の増減額	5,116 千円
減価償却費	-2,384,024 千円
賞与等引当金の増減額	-883 千円
退職手当引当金の増減額	150,686 千円
徴収不能引当金の増減額	-2,554 千円
資産売却損益	5,100 千円
その他の資産・負債の増減額	-19 千円
純資産変動計算書の本年度差額	311,986 千円

## 17 一時借入金

資金収支計算書上、一時借入金の増減額は含まれておりません。

なお、一時借入金の限度額及び利子額は次のとおりです。

・一時借入金の限度額	5,000,000 千円
・一時借入金に係る利子額	-

# 連結貸借対照表

(平成31年3月31日現在)

会計:全体会計

(単位:千円)

科目名	金額	科目名	金額
<b>【資産の部】</b>		<b>【負債の部】</b>	
固定資産	82,125,861	固定負債	40,736,730
有形固定資産	76,497,510	地方債等	32,183,305
事業用資産	35,361,884	長期未払金	-
土地	9,394,890	退職手当引当金	4,503,492
土地減損損失累計額	-	損失補償等引当金	-
立木竹	20	その他	4,049,933
立木竹減損損失累計額	-	流動負債	3,107,809
建物	47,366,620	1年内償還予定地方債等	2,517,379
建物減価償却累計額	-22,994,005	未払金	154,277
建物減損損失累計額	-	未払費用	-
工作物	4,906,712	前受金	5,965
工作物減価償却累計額	-3,525,044	前受収益	-
工作物減損損失累計額	-	賞与等引当金	262,315
船舶	1,678	預り金	167,858
船舶減価償却累計額	-1,678	その他	14
船舶減損損失累計額	-	負債合計	43,844,540
浮標等	-	<b>【純資産の部】</b>	
浮標等減価償却累計額	-	固定資産等形成分	84,454,191
浮標等減損損失累計額	-	余剰分(不足分)	-40,863,589
航空機	-	他団体出資等分	-
航空機減価償却累計額	-		
航空機減損損失累計額	-		
その他	-		
その他減価償却累計額	-		
その他減損損失累計額	-		
建設仮勘定	212,692		
インフラ資産	38,214,625		
土地	3,682,136		
土地減損損失累計額	-		
建物	1,332,365		
建物減価償却累計額	-682,652		
建物減損損失累計額	-		
工作物	84,002,277		
工作物減価償却累計額	-50,544,027		
工作物減損損失累計額	-		
その他	409,729		
その他減価償却累計額	-166,211		
その他減損損失累計額	-		
建設仮勘定	181,008		
物品	7,813,297		
物品減価償却累計額	-4,892,296		
物品減損損失累計額	-		
無形固定資産	97,924		
ソフトウェア	-		
その他	97,924		
投資その他の資産	5,530,427		
投資及び出資金	59,539		
有価証券	3,500		
出資金	56,039		
その他	-		
長期延滞債権	347,363		
長期貸付金	2,645		
基金	5,150,736		
減債基金	-		
その他	5,150,736		
その他	-		
徴収不能引当金	-29,856		
流動資産	5,309,281		
現金預金	2,805,190		
未収金	172,186		
短期貸付金	-		
基金	2,328,330		
財政調整基金	1,961,491		
減債基金	366,840		
棚卸資産	13,100		
その他	611		
徴収不能引当金	-10,136		
繰延資産	-	純資産合計	43,590,602
資産合計	87,435,141	負債及び純資産合計	87,435,141

# 連結行政コスト計算書

自 平成30年4月 1日  
至 平成31年3月31日

会計: 全体会計

(単位: 千円)

科目名	金額
経常費用	27,929,207
業務費用	12,419,609
人件費	3,841,522
職員給与費	3,289,288
賞与等引当金繰入額	260,791
退職手当引当金繰入額	-
その他	291,442
物件費等	7,849,802
物件費	3,643,181
維持補修費	595,380
減価償却費	3,611,242
その他	-
その他の業務費用	728,285
支払利息	346,751
徴収不能引当金繰入額	26,220
その他	355,315
移転費用	15,509,597
補助金等	11,857,082
社会保障給付	2,439,249
他会計への繰出金	1,148,249
その他	65,017
経常収益	1,844,615
使用料及び手数料	1,114,680
その他	729,936
純経常行政コスト	26,084,591
臨時損失	4,194
災害復旧事業費	-
資産除売却損	4,194
損失補償等引当金繰入額	-
その他	-
臨時利益	46,424
資産売却益	9,294
その他	37,130
純行政コスト	26,042,362

# 連結純資産変動計算書

自 平成30年4月1日  
至 平成31年3月31日

会計: 全体会計

(単位: 千円)

科目名	合計	固定資産等形成分	余剰分(不足分)	他団体出資等分
前年度末純資産残高	44,088,384	85,761,282	-41,672,898	-
純行政コスト(△)	-26,042,362		-26,042,362	-
財源	25,970,375		25,970,375	-
税金等	16,906,422		16,906,422	-
国県等補助金	9,063,953		9,063,953	-
本年度差額	-71,986		-71,986	-
固定資産等の変動(内部変動)		-1,054,309	1,054,309	
有形固定資産等の増加		2,523,624	-2,523,624	
有形固定資産等の減少		-3,648,286	3,648,286	
貸付金・基金等の増加		875,173	-875,173	
貸付金・基金等の減少		-804,820	804,820	
資産評価差額	-	-	-	-
無償所管換等	-249,397	-249,397		
他団体出資等分の増加			-	-
他団体出資等分の減少			-	-
比例連結割合変更に伴う差額	-	-	-	-
その他	-176,398	-3,384	-173,014	
本年度純資産変動額	-497,782	-1,307,091	809,309	-
本年度末純資産残高	43,590,602	84,454,191	-40,863,589	-

# 連結資金収支計算書

自 平成30年4月1日  
至 平成31年3月31日

会計: 全体会計

(単位: 千円)

科目名	金額
<b>【業務活動収支】</b>	
業務支出	24,444,234
業務費用支出	8,934,637
人件費支出	3,840,399
物件費等支出	4,401,632
支払利息支出	346,751
その他の支出	345,855
移転費用支出	15,509,597
補助金等支出	11,857,082
社会保障給付支出	2,439,249
他会計への繰出支出	1,148,249
その他の支出	65,017
業務収入	26,721,837
税収等収入	16,595,798
国県等補助金収入	8,475,667
使用料及び手数料収入	1,107,969
その他の収入	542,403
臨時支出	-
災害復旧事業費支出	-
その他の支出	-
臨時収入	37,130
<b>業務活動収支</b>	<b>2,314,732</b>
<b>【投資活動収支】</b>	
投資活動支出	3,530,206
公共施設等整備費支出	2,431,744
基金積立金支出	748,463
投資及び出資金支出	-
貸付金支出	350,000
その他の支出	-
投資活動収入	1,700,097
国県等補助金収入	614,487
基金取崩収入	181,360
貸付金元金回収収入	850,369
資産売却収入	31,700
その他の収入	22,181
<b>投資活動収支</b>	<b>-1,830,109</b>
<b>【財務活動収支】</b>	
財務活動支出	2,502,138
地方債等償還支出	2,502,138
その他の支出	-
財務活動収入	2,335,315
地方債等発行収入	2,335,315
その他の収入	-
<b>財務活動収支</b>	<b>-166,823</b>
本年度資金収支額	317,799
前年度末資金残高	2,358,999
比例連結割合変更に伴う差額	-
本年度末資金残高	2,676,799
前年度末歳計外現金残高	294,503
本年度歳計外現金増減額	-166,112
本年度末歳計外現金残高	128,391
本年度末現金預金残高	2,805,190

# 注記(全体会計)

## I 重要な会計方針

### 1 有形固定資産等の評価基準及び評価方法

・開始時における有形固定資産等の評価は原則として取得原価とし、取得原価が不明なものは原則として再調達原価としております。  
(償却資産… 建物・工作物・船舶・物品・その他・ソフトウェア)  
また、開始後については、原則として取得原価とし、再評価は行わないこととしております。

・棚卸資産の評価基準及び評価方法については、移動平均法によっております。

### 2 有価証券等の評価基準及び評価方法

・出資金及び有価証券のうち、市場価格があるもの  
会計年度末における市場価格をもって貸借対照表価額としております。

・出資金及び有価証券のうち、市場価格がないもの  
出資金額又は取得価額をもって貸借対照表価額としております。ただし、出資金のうち市場価格のないものについて、出資先の財政状態の悪化により出資金の価値が著しく低下した場合には、相当の減額を行うこととしております。  
なお、出資金の価値の低下割合が30%以上である場合には、「著しく低下したとき」に該当するものとしております。

### 3 有形固定資産等の減価償却の方法

・有形固定資産(事業用資産、インフラ資産)  
定額法を採用しております。

・無形固定資産  
定額法を採用しております。

### 4 引当金の計上基準及び算定方法

・徴収不能引当金  
過去5年間の平均不納欠損率により計上しております。

・退職手当引当金  
地方公共団体財政健全化法における退職手当支給額に係る負担見込額算定方法に従っております。

・賞与等引当金  
翌年度6月支給予定の期末・勤勉手当及びそれらに係る法定福利費相当額の見込額について、全支給対象期間に対する本年度の支給対象期間の割合を乗じた額を計上しております。

### 5 リース取引の処理方法

#### (1)ファイナンス・リース取引

ア、所有権移転ファイナンス・リース取引(リース期間が1年以内のリース取引及びリース料総額が300万円未満のファイナンスリース取引を除きます)

通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理を行っております。

イ、ア以外のファイナンス・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っております。

#### (2)オペレーティング・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っております。

### 6 資金収支計算書における資金の範囲

現金(手許現金及び要求払預金)及び現金同等物(3か月以内の短期投資等)を資金の範囲としております。  
なお、現金及び現金同等物には、出納整理期間中の取引により発生する資金の受払いも含んでおります。

### 7 その他財務書類作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理は税込方式によっております。

ただし、地方公営企業法が適用される水道事業会計及び病院事業会計においては、税抜方式によっております。



II 重要な会計方針の変更等

該当なし

III 重要な後発事象

該当なし

IV 偶発債務

該当なし

V 追加情報

1 対象範囲(対象とする会計)

一般会計等	事業会計	公営企業(法適)	公営企業(法非適)
一般会計	国民健康保険特別会計	水道事業会計	少年自然の家特別会計
	後期高齢者医療特別会計	病院事業会計	工業団地造成事業特別会計
	介護保険特別会計		

※地方公営企業会計は全て全部連結の対象としております。

ただし、地方公営企業法の財務規定等が適用されていない地方公営企業会計のうち、当該規定等の適用に向けた作業に着手している下記の会計については対象外としております。したがって、一般会計等における他会計への繰出などが相殺消去されておられません。

公共下水道事業特別会計	地方債残高	16,156,142 千円
	他会計繰入金	951,739 千円
	預り金	19,022 千円
農落排水事業特別会計	地方債残高	1,986,555 千円
	他会計繰入金	196,511 千円
	預り金	1,162 千円

2 出納整理期間

地方自治法235条の5の規定により出納整理期間が設けられております。財務書類の作成基準日は会計年度末(3月31日)ですが、出納整理期間中の現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としております。

なお、地方公営企業法が適用される水道事業会計及び病院事業会計については、出納整理期間はありませんが、出納整理期間がある一般会計又は各特別会計との間で取引があり、出納整理期間中に当会計年度に帰属する資金の授受がある場合は、当会計年度末に現金の受払い等が終了したものと調整しております。

3 端数処理等

千円未満を四捨五入して表示しているため、合計金額が一致しない場合があります。

4 売却可能資産に係る資産科目別の金額及びその範囲

売却可能資産の範囲は「資産評価及び固定資産台帳整備の手引き」の104段によっております。

事業用資産	789,188 千円
土地	674,670 千円
立木竹	20 千円
建物	113,926 千円
工作物	572 千円

平成31年3月31日時点における売却可能価額を記載しています。

売却可能価額は、地方公共団体の財政の健全化に関する法律における評価方法によっております。

5 純資産における固定資産等形成分及び余剰分(不足分)の内容

- ・固定資産等形成分は、固定資産の額に流動資産における短期貸付金及び基金等を加えた額を計上しております。
- ・余剰分(不足分)は、純資産合計額のうち、固定資産等形成分を差し引いた金額を計上しております。

# 連結貸借対照表

(平成31年3月31日現在)

会計:連結会計

(単位:千円)

科目名	金額	科目名	金額
<b>【資産の部】</b>		<b>【負債の部】</b>	
固定資産	84,249,421	固定負債	41,161,311
有形固定資産	77,867,884	地方債等	32,522,005
事業用資産	36,575,423	長期未払金	-
土地	9,523,731	退職手当引当金	4,589,373
土地減損損失累計額	-	損失補償等引当金	-
立木竹	20	その他	4,049,933
立木竹減損損失累計額	-	流動負債	3,134,180
建物	49,533,502	1年内償還予定地方債等	2,537,254
建物減価償却累計額	-24,132,711	未払金	154,277
建物減損損失累計額	-	未払費用	-
工作物	5,107,885	前受金	5,965
工作物減価償却累計額	-3,680,639	前受収益	-
工作物減損損失累計額	-	賞与等引当金	268,563
船舶	1,678	預り金	168,082
船舶減価償却累計額	-1,678	その他	40
船舶減損損失累計額	-	負債合計	44,295,490
浮標等	-	<b>【純資産の部】</b>	
浮標等減価償却累計額	-	固定資産等形成分	86,739,144
浮標等減損損失累計額	-	余剰分(不足分)	-41,181,325
航空機	-	他団体出資等分	-
航空機減価償却累計額	-		
航空機減損損失累計額	-		
その他	-		
その他減価償却累計額	-		
その他減損損失累計額	-		
建設仮勘定	223,636		
インフラ資産	38,217,484		
土地	3,684,996		
土地減損損失累計額	-		
建物	1,332,365		
建物減価償却累計額	-682,652		
建物減損損失累計額	-		
工作物	84,004,356		
工作物減価償却累計額	-50,546,106		
工作物減損損失累計額	-		
その他	409,729		
その他減価償却累計額	-166,211		
その他減損損失累計額	-		
建設仮勘定	181,008		
物品	8,991,151		
物品減価償却累計額	-5,916,174		
物品減損損失累計額	-		
無形固定資産	99,935		
ソフトウェア	2,011		
その他	97,924		
投資その他の資産	6,281,602		
投資及び出資金	59,539		
有価証券	3,500		
出資金	56,039		
その他	-		
長期延滞債権	347,840		
長期貸付金	2,645		
基金	5,901,849		
減債基金	1,103		
その他	5,900,746		
その他	-		
徴収不能引当金	-30,271		
流動資産	5,603,889		
現金預金	2,938,362		
未収金	172,228		
短期貸付金	-		
基金	2,489,723		
財政調整基金	2,122,884		
減債基金	366,840		
棚卸資産	13,100		
その他	611		
徴収不能引当金	-10,136		
繰延資産	-	純資産合計	45,557,819
資産合計	89,853,310	負債及び純資産合計	89,853,310

# 連結行政コスト計算書

自 平成30年4月 1日  
至 平成31年3月31日

会計: 連結会計

(単位: 千円)

科目名	金額
経常費用	31,502,697
業務費用	13,019,784
人件費	3,923,650
職員給与費	3,362,992
賞与等引当金繰入額	267,039
退職手当引当金繰入額	8
その他	293,612
物件費等	8,277,564
物件費	3,900,289
維持補修費	647,757
減価償却費	3,729,501
その他	17
その他の業務費用	818,570
支払利息	349,209
徴収不能引当金繰入額	26,220
その他	443,141
移転費用	18,482,913
補助金等	10,442,460
社会保障給付	6,822,957
他会計への繰出金	1,148,249
その他	69,247
経常収益	1,875,738
使用料及び手数料	1,131,069
その他	744,669
純経常行政コスト	29,626,959
臨時損失	4,194
災害復旧事業費	-
資産除売却損	4,194
損失補償等引当金繰入額	-
その他	-
臨時利益	46,424
資産売却益	9,294
その他	37,130
純行政コスト	29,584,729

## 連結純資産変動計算書

自 平成30年4月1日  
至 平成31年3月31日

会計：連結会計

(単位：千円)

科目名	合計	固定資産等形成分	余剰分(不足分)	他団体出資等分
前年度末純資産残高	46,244,009	88,238,294	-41,994,285	-
純行政コスト(△)	-29,584,729		-29,584,729	-
財源	29,413,914		29,413,914	-
税金等	18,393,121		18,393,121	-
国県等補助金	11,020,793		11,020,793	-
本年度差額	-170,815		-170,815	-
固定資産等の変動(内部変動)		-1,147,317	1,147,317	
有形固定資産等の増加		2,531,391	-2,531,391	
有形固定資産等の減少		-3,743,014	3,743,014	
貸付金・基金等の増加		899,302	-899,302	
貸付金・基金等の減少		-834,995	834,995	
資産評価差額	-	-		
無償所管換等	-249,397	-249,397		
他団体出資等分の増加			-	-
他団体出資等分の減少			-	-
比例連結割合変更に伴う差額	2,865	-181,430	184,295	-
その他	-268,842	78,994	-347,836	-
本年度純資産変動額	-686,190	-1,499,150	812,960	-
本年度末純資産残高	45,557,819	86,739,144	-41,181,325	-

# 連結資金収支計算書

自 平成30年4月1日  
至 平成31年3月31日

会計: 連結会計

(単位: 千円)

科目名	金額
<b>【業務活動収支】</b>	
業務支出	27,903,428
業務費用支出	9,421,457
人件費支出	3,927,431
物件費等支出	4,710,974
支払利息支出	349,209
その他の支出	433,842
移転費用支出	18,481,971
補助金等支出	10,442,460
社会保障給付支出	6,822,957
他会計への繰出支出	1,148,249
その他の支出	68,305
業務収入	30,181,013
税収等収入	18,074,497
国県等補助金収入	10,429,779
使用料及び手数料収入	1,124,358
その他の収入	552,379
臨時支出	-
災害復旧事業費支出	-
その他の支出	-
臨時収入	37,130
<b>業務活動収支</b>	<b>2,314,715</b>
<b>【投資活動収支】</b>	
投資活動支出	3,556,483
公共施設等整備費支出	2,439,510
基金積立金支出	766,973
投資及び出資金支出	-
貸付金支出	350,000
その他の支出	-
投資活動収入	1,730,261
国県等補助金収入	617,215
基金取崩収入	201,406
貸付金元金回収収入	850,369
資産売却収入	31,700
その他の収入	29,571
<b>投資活動収支</b>	<b>-1,826,222</b>
<b>【財務活動収支】</b>	
財務活動支出	2,520,655
地方債等償還支出	2,520,655
その他の支出	-
財務活動収入	2,351,462
地方債等発行収入	2,351,462
その他の収入	-
<b>財務活動収支</b>	<b>-169,192</b>
本年度資金収支額	319,301
前年度末資金残高	2,492,265
比例連結割合変更に伴う差額	-2,405
本年度末資金残高	2,809,160
前年度末歳計外現金残高	295,217
本年度歳計外現金増減額	-166,016
本年度末歳計外現金残高	129,201
本年度末現金預金残高	2,938,362

## 注記(連結会計)

### I 重要な会計方針

#### 1 有形固定資産等の評価基準及び評価方法

・開始時における有形固定資産等の評価は原則として取得原価とし、取得原価が不明なものは原則として再調達原価としております。  
(償却資産… 建物・工作物・船舶・物品・その他・ソフトウェア )  
また、開始後については、原則として取得原価とし、再評価は行わないこととしております。

・棚卸資産の評価基準及び評価方法については、移動平均法によっております。

#### 2 有価証券等の評価基準及び評価方法

・出資金及び有価証券のうち、市場価格があるもの  
会計年度末における市場価格をもって貸借対照表価額としております。

・出資金及び有価証券のうち、市場価格がないもの  
出資金額又は取得価額をもって貸借対照表価額としております。ただし、出資金のうち市場価格のないものについて、出資先の財政状態の悪化により出資金の価値が著しく低下した場合には、相当の減額を行うこととしております。  
なお、出資金の価値の低下割合が30%以上である場合には、「著しく低下したとき」に該当するものとしております。

#### 3 有形固定資産等の減価償却の方法

・有形固定資産(事業用資産、インフラ資産)  
定額法を採用しております。

・無形固定資産  
定額法を採用しております。

#### 4 引当金の計上基準及び算定方法

・徴収不能引当金  
過去5年間の平均不納欠損率により計上しております。

・退職手当引当金  
地方公共団体財政健全化法における退職手当支給額に係る負担見込額算定方法に従っております。

・賞与等引当金  
翌年度6月支給予定の期末・勤勉手当及びそれらに係る法定福利費相当額の見込額について、全支給対象期間に対する本年度の支給対象期間の割合を乗じた額を計上しております。

#### 5 リース取引の処理方法

##### (1)ファイナンス・リース取引

ア、所有権移転ファイナンス・リース取引(リース期間が1年以内のリース取引及びリース料総額が300万円未満のファイナンスリース取引を除きます)  
通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理を行っております。

イ、ア以外のファイナンス・リース取引  
通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っております。

##### (2)オペレーティング・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っております。

#### 6 資金収支計算書における資金の範囲

現金(手許現金及び要求払預金)及び現金同等物(3か月以内の短期投資等)を資金の範囲としております。  
なお、現金及び現金同等物には、出納整理期間中の取引により発生する資金の受払いも含んでおります。

#### 7 その他財務書類作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理は税込方式によっております。  
ただし、地方公営企業法が適用される水道事業会計及び病院事業会計においては、税抜方式によっております。

### II 重要な会計方針の変更等

該当なし

### Ⅲ 重要な後発事象

該当なし

### Ⅳ 偶発債務

該当なし

### Ⅴ 追加情報

#### 1 対象範囲(対象とする会計)

一般会計等	事業会計	公営企業(法適)	公営企業(法非適)
一般会計	国民健康保険特別会計	水道事業会計	少年自然の家特別会計
	後期高齢者医療特別会計	病院事業会計	工業団地造成事業特別会計
	介護保険特別会計		

連結会計	連結方法	比例連結割合
阿賀北広域組合	比例連結	50.04%
五泉地域衛生施設組合	比例連結	17.52%
新発田地域老人福祉保健事務組合	比例連結	10.16%
下越障害福祉事務組合	比例連結	13.33%
新潟県市町村総合事務組合(一般会計)	比例連結	2.18%
新潟県市町村総合事務組合(消防団員等公務災害補償事業特別会計)	比例連結	2.01%
新潟県市町村総合事務組合(消防賞じゅつ金会支給事業特別計)	比例連結	2.10%
新潟県市町村総合事務組合(非常勤職員公務災害補償等事業特別会計)	比例連結	6.54%
新潟県市町村総合事務組合(事業会計)	比例連結	2.67%
新潟県後期高齢者医療広域連合	比例連結	1.69%

※比例連結割合は小数点以下第3位を四捨五入して表示しております。

※地方公営企業会計は全て全部連結の対象としております。

※一部事務組合・広域連合は各構成団体の経費負担割合等に基づき比例連結の対象としています。

※新発田地域老人福祉保健事務組合及び下越障害福祉事務組合については、改訂モデルの財務四表を統一的な基準に読替えて連結を行っております。

ただし、地方公営企業法の財務規定等が適用されていない地方公営企業会計のうち、当該規定等の適用に向けた作業に着手している下記の会計については対象外としております。したがって、一般会計等における他会計への繰出などが相殺消去されておられません。

公共下水道事業特別会計	地方債残高	16,156,142 千円
	他会計繰入金	951,739 千円
	預り金	19,022 千円
農落排水事業特別会計	地方債残高	1,986,555 千円
	他会計繰入金	196,511 千円
	預り金	1,162 千円

#### 2 出納整理期間

地方自治法235条の5の規定により出納整理期間が設けられております。財務書類の作成基準日は会計年度末(3月31日)ですが、出納整理期間中の現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としております。

なお、地方公営企業法が適用される水道事業会計及び病院事業会計については、出納整理期間はありませんが、出納整理期間がある一般会計又は各特別会計との間で取引があり、出納整理期間中に当会計年度に帰属する資金の授受がある場合は、当会計年度末に現金の受払い等が終了したものと調整しております。

#### 3 端数処理等

千円未満を四捨五入して表示しているため、合計金額が一致しない場合があります。

#### 4 純資産における固定資産等形成分及び余剰分(不足分)の内容

- ・固定資産等形成分は、固定資産の額に流動資産における短期貸付金及び基金等を加えた額を計上しております。
- ・余剰分(不足分)は、純資産合計額のうち、固定資産等形成分を差し引いた金額を計上しております。



阿賀野市イメージキャラクター  
「ごずっちょ」



平成30年度 阿賀野市財務書類 ～統一的な基準～

作成 阿賀野市総務部企画財政課  
電話 0250-62-2510 (代表)  
Fax 0250-62-0281  
E-mail [zaisei@city.agano.niigata.jp](mailto:zaisei@city.agano.niigata.jp)